

については今井理事がまとめて案をつくることとなった。

4. 藤原賞設置については、吉武、淵 両理事が案をつくることとなった。
5. 朝日科学奨励金に関し各支部長あて候補者推せん方をお願いすることとなった。
6. 朝日科学奨励金等のすいせんにはどんな方法でやったらよいか、磯野、神山、淵 三理事で案をつくることとなった。
7. 5月30日から6月3日まで5日間開かれる日本学

術会議南極特別委員会主催の南極観測シンポジウムに関し、共催として協力し、「天気」に掲載してその開催を会員に周知することとなった。

8. 前記シンポジウムにおける気象部門の総会報告講演者として川畑幸夫氏を推せんすることとなった。
9. 電波科学研究連絡委員会から依頼予定の1963年東京で開かれる URSI 総会に関し当学会も協力することとなった。
10. 海洋学用語選定原案（第2次案）に関し検討方を用語委員会をお願いすることとなった。

第24回常任理事会議事録

日時 昭和35年4月2日 1000~1400
 場所 神田一ツ橋 学会会館
 出席者 伊東・岸保・吉武・島山・神山・今井・
 根本・淵 各理事・伊藤選挙管理委員長
 (順序不同)

決議

1. 春季大会の座長を次のようにお願いすることとなった。

	第1会場	第2会場
5月12日午前	滑川 忠夫	堀内 剛二
午後	高橋浩一郎	石井 千尋
	間野 浩	三宅 泰雄
13日午前	正野 重方	孫野 長治
午後	荒川 秀俊	磯野 謙治
14日午前	藤井 義之	伊東 暉自

2. 数値予報国際シンポジウムの開催に関し準備委員会（第15回常任理事会決議 34. 7. 11）を作って着々準備を進めてきたが、今回下記のとおり組織委員会と実行委員会を編成しておしすめることとなった。

組織委員会（委員長 島山久尙）
 島山 久尙（日本気象学会理事長）

和達 清夫（日本学術会議会長・気象庁長官）
 正野 重方（東大教授・実行委員会委員長）
 肥沼 寛一（気象庁予報部長）
 小平 吉男（気象研究所長）
 有田 毅（気象庁総務部長）

組織委員会のもとに次の実行委員会をおく。

実行委員会（委員長 正野重方）

委員会には次の部会をおく。

- (1) 外国関係（正野）・毛利・須田
 接待関係（伊藤博）・和田・益子
 講演企画（正野）・岸保・斎藤直・窪田・松本・
 都田
 会計（吉武）・益子・鈴木徹
 広報（伊藤博）・岸保・鍋島
 会場（淵）・北田・益子
 記録（新田）・都田
 出版関係（桜庭）

() 印は各部会主任

3. 9月国際生気候学会で計画している「人工気候室」シンポジウムを、建築学会、衛生学会と協力して催すこととなった。

国際数値予報シンポジウム便り (I)

1. 会場は日本都市センター（東京都千代田区平河町2丁目）に決定した。

2. 参加申込状況

招待者86名の内4月15日現在46名から返事があり参加予定者は次の33名（その内5名は参加希望の意志を表明しているが未確定：*印）である。このほかソ連等からも若干名参加するもようである。

アメリカ

G. Árnason L. Berkofsky H. A. Bedient
 J. G. Charney M. A. Estoque R. D. Fletcher
 T. Fujita *W. L. Gates M. M. Holl
 A. Kasahara E. N. Lorentz D. E. Martin
 Y. Mintz *G. Morikawa *W. D. Mount
 Y. Ogura R. L. Pfeffer G. W. Platzman

Y. Sasaki *R. Shapiro F. G. Shuman
 J. Smagorinsky J. Spar H. Wexler
 P. M. Wolff M. G. Wurtele S. Manabe

ドイツ

K. Hinkelmann H. Reiser F. Wippermann
 スウェーデン

B. Bolin B. R. Döös

ノールウェイ

R. Fjørtoft

ベルギー

J. van Isacker

3. 本年3月に従来の準備委員会を組織委員会と実行委員会にくみかえ、実施の具体的な諸準備に入った。